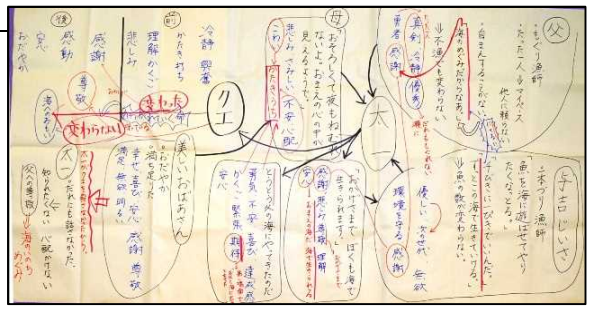
６年　国語科研究授業のまとめ（１０月１９日）

１　単元名及び単元の目標

海のいのち（７/９本時）

◎物語が自分に最も強く語りかけてくることは何かを考えることができる。



【資料１　単元を通した人物関係図】

２　本研究授業の提案について

物語文において登場人物の心情の変化に気付かせるための手だてとして，以下の二つを提案した。

(1)登場人物の心情に迫るための手だてとして，文章ではなく短い言葉（キーワード）で心情を考えさせ，それを共有し合うという活動を行った。（例　父：真剣，冷静，優秀　与吉じいさ：優しさ，無欲，感謝　母：心配，悲しみ，不安　等）単元の導入時から登場人物ごとに同じ活動を行ってきたことで，児童にも習熟が見られるようになり，より適切な言葉で心情を表すことができるようになった。また，本時では太一の心情について山場の前後に分けて言葉を考えさせ，集約し比較させたことで，より深い心情について考えさせることができた。（例　前：興奮，敵討ち，悲しみ　後：感謝，感動，穏やか　等）その際，対になる言葉同士を組み合わせて全体で共有したが，太一の人物像により迫るためには，個別に考えた言葉の中から主題に関わるものを取り上げる方法も有効であったと考える。

(2)心情を読み取る言葉を共有する際，グループ活動を取り入れた。グループ内で自分の考えたキーワードを発表させる際，必ず教科書の表現に立ち返り，それを考えの根拠として述べるようにさせた。そうすることで文章に即してお互いの考えを確認し，納得しながら太一の心情の変化について話し合うことができた。また，山場の前後における心情の変化にも気付くことができた。

似たキーワード同士を分類して題名を付けるという活動もグループ内で行った。お互いの意見を比較・検討する場面を設けることがねらいであったが，話合いを活性化させるには至らなかった。考えを伝えるだけではなく，交流の中から再考することができるように，適切な論点を工夫するなど，学習活動の在り方を今後も考えていきたい。

３　本研究授業の授業技術課題について

人物同士の関係を見取ったり，各時間の学習内容をまとめたりするために，人物関係図を活用した。（資料１参照）一単元で一枚の図とし，主人公を中心として少しずつ書き足していく形式をとった。主人公に影響を与えた人物の思いを関連付けて見ることができ，山場である本時の読み取りへとつなげることができた。さらに板書として教師がまとめたものを継続して掲示することで，学習の蓄積を可視化することもできた。しかし，関係図を記入する際，人物間の矢印の向きが読み取った内容に大きく影響することに気付き，吟味して記入する必要性を感じた。

４　今年度の研究を振り返って

今年度は説明文と物語文の研究授業を行った。どちらも読みを深めるための手だてとして，図や表を活用する活動を取り入れてきた。書き手の工夫に気付かせたり，主人公の心情に迫ったりさせる上でどちらも有効であり，今後も国語の教材研究を行う際に継続して取り入れていきたいと考える。それらの手だてを通して，単元のねらいに近づくことができたという手ごたえは感じたが，研究主題に関わる「協働的な学び」については，今一歩であった。ペア学習やグループ学習の中で，考えを伝え合い，比較し，検討する活動を行ってきたが，再考した中から新しい考えやより高次の考えへとたどり着くことはできなかった。今後は研究教科の特性を理解した上で，話合いが活性化するするような協働的な学習の在り方を探っていきたいと考える。